

管理職からの メッセージ Message



専門と業務との関わり

国立国会図書館の特徴の一つに、職員のバックグラウンドの多様性があります。採用試験の専門科目は、社会科学系、人文系、理科系から選択できます。職員は、専門的な知識や考え方をいかしつつ、専門にこだわりすぎない柔軟さを持って、業務に取り組んでいます。個人的な経験ですが、理科系出身の私のお話をしましょう。

当館の所蔵する膨大な図書や雑誌には自然科学技術関係のものも含まれますから、司書部門で働いていた時期には、専門知識を直接いかすことのできる場面もありました。一方、調査及び立法考査局に異動し、国会向けの調査を行うようになってからは、知識そのものよりもむしろ、培ってきた客観的な物の見方や科学的な思考法が、情報の収集・整理・分析や調査報告書作成の際の大きなアドバンテージになったと感じます。また、調査の過程では法令の条文を読み解かなければならない場面もあり、法学専攻ではない身にとっては努力が必要だったのですが、苦痛ではありませんでした。他の理科系出身者を見て思うのですが、法令はいわば理屈で書かれているので理科系と相性が良いのかもしれない。管理職になってからも、データを収集して分析するスキルは業務改善等に役立っています。



国会議員等を対象とした政策セミナー

印象に残る仕事

調査及び立法考査局では、議員からの依頼に基づく調査のほか、今後国政上の課題となりそうなテーマについての自発的な「予測調査」を行っています。予測調査には個人で行うものと局横断的なプロジェクトとして行うものがありますが、後者について特に印象に残る仕事があります。

一つは、平成14年度に行われた主要国における緊急事態への対処に関する調査の一環として、北欧等の緊急時の食料供給確保策について現地調査を実施したことです。当時、外国の当該政策についての情報は多くなく、「何がわかればこの問題がわかったと言えるのか」を考え抜く必要があるなど準備に苦労しましたが、この経験は調査員としての私の核になりました。調査結果は冊子にまとめ、平成16年には、衆議院農林水産委員会に参考人として招致され、内容の一部をご説明しました。

もう一つは、平成22年度に初代の科学技術室長となり、「科学技術に関する調査プロジェクト」を管理・運営したことです。当館の調査員と外部の有識者や専門機関が連携するこれまでにない方式の調査であり、特有の難しさがありましたが、改善すべき点は次のサイクルに反映させ、このプロジェクトの型のようなものを作っていました。

メッセージ

当館には、このほか電子図書館関係やシステム関係の仕事もあります。理科系に限らず専門的な勉強を頑張った人ほど、当館への就職には異業種への転職のようなハードルの高さを感じるかもしれません。しかし、当館で新たな分野に取り組む中で自分の強みを発揮できることもあるのです。ぜひ当館を選択肢として検討してください。

調査及び立法考査局総合調査室付主幹、調査企画課長事務取扱

森田 倫子 H1入館(II種)

● Career

- H 1.10～ 専門資料部科学技術資料課
- H 4. 4～ 図書部図書整理課
分類件名係長(H8.4～)
主題第二係長(H9.12～)
- H11. 4～ 調査及び立法考査局農林環境課
H19. 7～ 出向(衆議院調査局)
- H21. 7～ 調査及び立法考査局国会レファレンス課
課長補佐
- H22. 4～ 同 文教科学技術課科学技術室長
- H25. 4～ 同 経済産業調査室付主任調査員
- H26. 4～ 同 農林環境課長
- H28. 4～ 同 国会レファレンス課長
- H29. 4～ 同 総合調査室付主幹、国会レファレンス課長事務取扱
- H30. 4～ 同 総合調査室付主幹、調査企画課長事務取扱

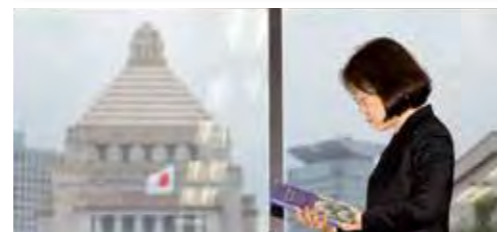
● Profile

学生時代の専攻/生物化学
仕事の必需品/大型英語辞書が好きです。今はネットもありますが、特に翻訳をするときは、より良い訳文を考えるために引き比べます。
趣味/ペランダガーデニング。
永遠の初心者ですが緑も花もなごみます。

国立国会図書館職員に求められる「専門性」

国立国会図書館ではあらゆる分野の資料・情報を扱っています。幅広い領域にわたる国政課題の分析には、科学技術や統計を含む様々な知識が必要とされます。また、社会科学、人文科学、自然科学の様々なテーマについてレファレンス回答や資料の紹介を行うためには、各分野の専門知識を持つことが求められます。近年は、電子情報サービスにも注力しているため、ITに関する知識をいかに増やしています。

そのため、国立国会図書館では、どのような分野であっても、大学等で培った専門性をいかす機会を得られます。一方で、担当業務に合わせて新たな専門性を高める必要もあるので、研修に参加したり自主的な勉強会を開催したりするなど、知識の習得に積極的な職員も多くいます。



国会議事堂を望んで

公共的な情報サービスの最前線

入館以来、様々な業務を経験しましたが、直近に担当した業務をご紹介します。この2年間は、科学技術・経済・社会・教育・スポーツ分野のレファレンスサービスと外国資料の選書等を担当しました。レファレンスサービスとは、利用者がお探しの情報(源)を効率よく入手できるようにお手伝いするサービスのことです。インターネットで膨大な情報にアクセスできる時代になりましたが、検索エンジンだけで必要な情報をうまく見つけられるわけではありません。インターネット上の様々なツールを使いこなす技能が必要です。また、そもそもインターネットでは得られない情報もたくさんあります。当館の強みは納本制度に基づき収集・蓄積した過去から現在に至る幅広い情報資源と充実したデータベースです。主題に関する専門知識とツールを使いこなす情報探索技能に基づいて、利用者の多様な情報ニーズを満たすことがレファレンスサービス担当者の醍醐味です。今後、電子書籍が普及すれば、全文検索の時代が到来します。より広く深く、知のストックを縦横無尽に探索して幅広い情報ニーズに応えることが私たちの任務となるでしょう。

また、当館は、戦後間もないころから国の科学技術振興の一環として、科学技術関係資料の収集に力を入れてきました。この間、紙の雑誌は電子ジャーナルに姿を変え、誰もがインターネットでアクセスできるオープンアクセスの論文も増えました。科学技術情報の流通形態が変わり、また、オープンサイエンスに見られるように科学の在り方自体が転換期にある中で、当館の役割も変化が求められます。この課題を専門的な立場から調査審議していただくために、館長の諮問機関である審議会を設けており、その運営事務も担当しました。日本の知を代表する学識経験者と接する得がたい機会に恵まれ、啓発されました。



科学技術情報整備審議会の様子

知識情報空間としての図書館施設

図書館を構成する資源は、人、予算、資料、情報システム、施設の五つです。このうち施設の整備と運用管理が現在の担当業務です。当館は、永田町の東京本館庁舎だけで延床面積が15万㎡近くある大きな公共施設です。利用される皆様の安心・安全を守るために、施設の運用管理に専門職員が奔走しています。また、当館では書庫を確保するために施設を順次拡張してきました。現在も関西館の書庫棟の増築工事を行っています。一方、東京本館施設は建設から半世紀が過ぎ、老朽化が進んでいます。科学の在り方が変わり、学びの形が変わる中で、これからの知識基盤社会を支える知識情報空間である図書館施設の新しい姿を考えることも現在の仕事です。

メッセージ

図書館の仕事は、人々が求める資料や情報の入手をサポートする公共的な情報サービスです。今後、デジタルへのシフトが進み、「館」としての図書館の姿は変わっていくでしょうが、知識や情報の重要性が増す社会において、公共的な情報サービスもまたその重要性を増すことでしょう。情報サービスを担う図書館員には、高度で幅広い主題専門知識と情報探索技能、そして対人サービスに必要な接客スキルが今後ますます求められます。対人サービスの難しさもありますが、その分やりがいがあります。仕事を通じて生涯学ぶことができるのも図書館の魅力です。情報サービスの未来と一緒に考えてくださる方をお待ちしています。

総務部管理課長

竹内 秀樹 H5入館(I種)

● Career

- H 5. 4～ 逐次刊行物部複写課
- H 6.10～ 調査及び立法考査局商工科学技術課
- H11. 4～ 総務部会計課
予算係長(H12.4～)
- H14. 4～ 関西館事業部図書館協力課 調査情報係長
- H17. 7～ 収集部外国資料課 国際交換係長
- H18. 4～ 総務部企画課
課長補佐(H19.4～)
- H21. 4～ 同 情報システム課 課長補佐
- H23.10～ 電子情報部電子情報サービス課長心得
課長(H24.1～)
- H26. 4～ 同 電子情報流通課長
- H27. 4～ 収集書誌部付主任司書
- H28. 4～ 利用者サービス部科学技術・経済課長
- H30. 4～ 総務部管理課長

● Profile

学生時代の専攻/経済学
仕事の必需品/ノートパソコンとノート、それにボールペンです。
メモを取る事が仕事の基本です。
趣味/山にハイキングに行くことです。専ら日帰りコースですが、最高のストレス解消法でもあります。

出向・人事交流

外部機関での経験により視野を広げ、国立国会図書館での業務に役立てることを目的として、国や地方公共団体等の諸機関と出向・人事交流を行っています。また、実務研修として、公共図書館との研修交流も行っています。

<近年の主な出向先・実務研修員派遣先>

会計検査院	衆議院調査局
衆議院法制局	参議院法制局
工業所有権情報・研修館	宮城県図書館
福島県立図書館	京都府立図書館



管理課事務室のアスクにて